特204
626

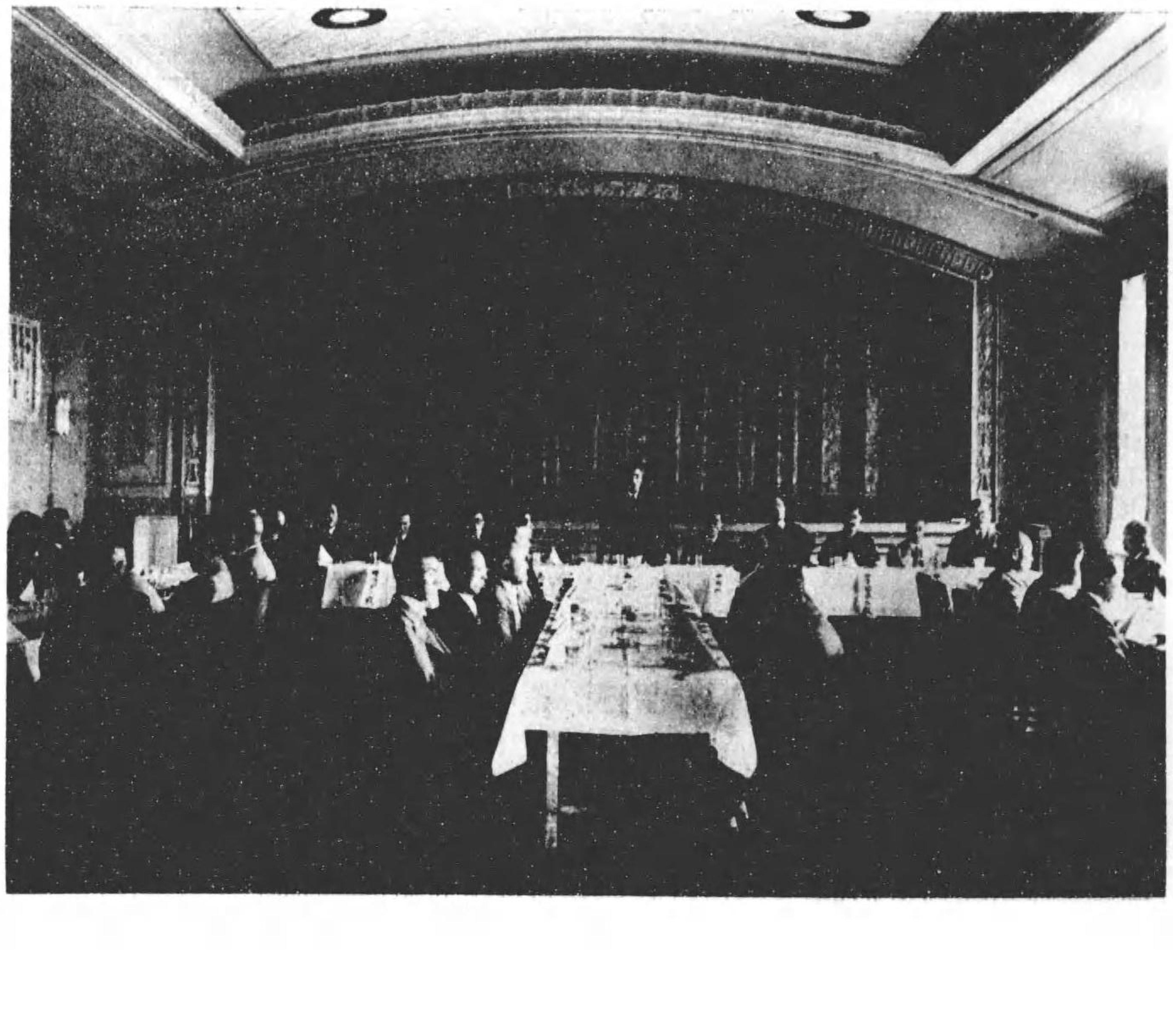
# 敦賀港振興座談會

（昭和十四年三月三十日 於福井市人絹會館）

39
16

始

―敦賀港振興座談會―



（福井市人絹會館にて）

# 敦賀港振興座談會

（四月三十日　於福井市人絹會館）

## 出席者

### 福井縣廳側

| | | |
|---|---|---|
| 福井縣知事 | | 木村清司 |
| 仝 | 總務部長 | 堀口功 |
| 仝 | 經濟部長 | 藤原侃治 |
| 仝 | 土木課長 | 中忠義 |
| 仝 | 商工水產課長 | 酒井利一 |
| 仝 | 秘書課長 | 岡山重 |
| 仝 | 港灣技師 | 河戸万吉 |
| 仝 | 商工事務官 | 稲木進 |
| 仝 | 商工技師 | 越野兵吉 |
| 仝 | 商工主事 | 片山德行 |
| 仝 | 商工屬 | 松川吉榮 |
| 仝 | 庶務課長 | 山田喜克 |
| 仝 | 清津駐在員　商工課囑託 | 宮崎爲三 |
| 貴族院議員 | | 山田仙之助 |
| 衆議院議員 | | 添田敬一郎 |
| 福井縣會副議長 | | 小谷重右衛門 |
| 敦賀稅關支署長 | | 岩川繁義 |



特204
626

## 福井市側

| | |
|---|---|
| 福井驛長 | 小林直次 |
| 福井市長 | 齋藤直橘 |
| 仝　助役 | 水間尹夫 |
| 仝　助役 | 關市太郎 |
| 仝　産業課長 | 高橋正 |
| 福井市會議長 | 熊谷太三郎 |
| 福井縣町村長會長 | 田中喜三郎 |
| 福井商工會議所副會頭 | 鎌田藤右衛門 |
| 仝　副會頭 | 藤本幸三郎 |
| 仝　理事 | 渡邊隆之 |
| 福井縣織物同業組合組長 | 久保義隆 |
| 仝　副組長 | 内田清 |
| 福井縣絹人絹糸布輸出組合理事長 | 西野幸作 |
| 仝　常務理事 | 畑岡彰 |
| 仝　書記長 | 田中清右衛門 |
| 大阪朝日新聞記者 | 島田博 |
| 大阪毎日新聞記者 | 杉本伊佐美 |
| 福井新聞記者 | 上田岩佐 |
| 仝 | 奥村秀雄 |



## 敦賀市側

| | |
|---|---|
| 敦賀市長 | 若林義孝 |
| 敦賀市會議長 | 田保仁左衛門 |
| 敦賀市會議員 | 小林千代三郎 |
| 仝 | 辻野長太郎 |
| 仝 | 増山源治郎 |
| 仝 | 宮川市之助 |
| 仝 | 脇坂貞二郎 |
| 仝 | 東捨松 |
| 仝 | 角谷鹿三 |
| 仝 | 松永藤吉 |
| 仝　敦賀商工會議所議員交通部長 | 植山常太郎 |
| 敦賀商工會議所會頭 | 那須吉兵衛 |
| 仝　副會頭 | 増山増藏 |
| 敦賀商工會議所議員 | 加藤藤吉 |
| 仝 | 原政吉 |
| 仝 | 増宮崎次郎 |
| 仝 | 吉田忠吉 |
| 敦賀市助役 | 水野定治 |
| 敦賀市港灣課長 | 竹野朝雄 |
| 仝　庶務課長 | 前田良一 |

# 座談會懇談事項

一、敦賀港振興に關する一般的意見

一、海陸施設の見地より考察せる振興策

一、產業貿易交通運輸上より見たる振興策

一、福敦道路改修促進に就て

一、第三期築港擴張計畫に就て



## 名譽會長福井縣知事木村清司閣下挨拶

今回敦賀港の振興に關し各位の御高見を拜聽して、將來に對處致したいと存じ、玆に本座談會を開催致しました所、時局柄極めて御多用の際にも拘らず、斯く多數の皆様の御來會を得ました事は、主催者の一人と致しまして、洵に欣快に堪へない所であります。由來敦賀港は、天惠の良港として、其の位置本洲の中央部を占むるを以て、往古より內地は勿論、對岸地方との通商、交通の要津でありまするが、時勢の進運に伴ひ、先に再度の築港工事を竣へ、今や愈々日本海唯一の良港灣として、其重要使命の達成に邁進しつゝあるのであります。

惟ふに敦賀港は後方地帶に名古屋、京阪の經濟的大都市を控へ、一葦帶水の對岸には、幾多の資源を實藏せる新興滿洲國並に北鮮を有し、日滿交通の要衝として、最も重要なる地位を占むることは、衆人の齊しく認むる所であります。殊に最近滿洲國の發展及び本邦國防第一線の强化に伴ひ、日本海航路の整備擴充は、國策として朝野の注意を喚起して居る次第でありまして、本港の將來に付きましては、充分の檢討を重ね、宜しく其の前途を達觀して、日滿經濟ブロックの運營を違算なからしめ、以て江湖の負托に副ふべきであると存ずるのであります。

現下長期大陸建設の非常時局に鑑み、產業、經濟、貿易の体制を補强擴充して敦賀港の振興を圖りまする事は福井縣として、國家に貢献する所以であると存ずるのでありまして、此の見地から本日玆に產業經濟方面に御關係深き有力なる各位の御會合を煩しまして、敦賀港の振興に付ての御高見を拜聽致す運びと相成つた次第であります。

何卒右申述べました趣旨に依り凡ゆる角度から皆樣の忌憚なき御高見を拜聽致したいと存じます。之を以て開會の挨拶と致します。

# 會長敦賀市長挨拶

本日は月末で極めて御多忙にも拘はりませず、御繰合せを願ひまして、御出席を頂きました事を厚く御禮申上げたいと思ひます。私は敦賀港の使命と、敦賀港振興同盟會設立の要綱並に今日御當地に座談會を開催する事になりました趣旨に付きまして、お話し申上げ、併せて第三期築港擴張計畫に關しまして、一言所見を申上げて、御協力を仰ぎたいと存ずるのであります。

敦賀港の沿革に付きましては、私より申上げる迄もなく、皆さんに於かせられましても、詳細御承知の事と存ずるのであります。本港が今日の隆盛を來しました所以は、之は全く、是天から與へられました自然の良港である爲でありまして、往年殷賑を極めました狀況は既に歴史に明かな所でありますから、今更此点に付て喋々する必要はないと思ひます。本港は日露戰爭の後浦潮航路開設に對しまして、對露通商貿易の上に極めて重要なる港となりましただけでなくして、政府に於きましては、本港の重要性を認めまして、明治四十年に第一種重要港灣に選定せられたのであります。爾來今日に至ります迄幾多の變遷はありますが、漸次發達の道程を辿りまして、港勢の進展を示して來たのであります。殊に歐洲大戰の勃發に依りまして、本港の經濟上及び軍事上に於ける所の重要性を一層深く認識せられたのでありましたが、滿洲建國と、支那事變の爲に、日本海航路の重要性は、愈々緊密の度を加へるに至りましたので、敦賀港の使命も益々事變の進展に伴ひまして、其重要性が増大されるに至つたのであります。つまり滿洲建國を楔機と致しまして、日滿交通の一元化が强調されまして、北鮮の港を通ずる日滿聯絡航路の擴充强化を急務とされるに至りましたので、政府に於きましては、日本海航路の統制を企畫されまして、之が充實に伴ふ港灣施設の整備を行ふに決せられました。

其第一着手として新潟港の修築を決定されたのであります。勿論日本海岸各港に於きましては、それ〲港の有する使命の特長があるのであります。故に此所で新潟、或は伏木其他の港に對して、之と對比して、彼之競爭的の意識を持つて申上げるものではありませんが、私が敦賀港と致しましては、第一期及第二期工事を通じて、總工費四百數十萬圓を投ぜられまして、現在の設備を得たのでありますが、港灣と致しましては、此四百數十万圓を投じた上に、自然の良港、天與の良港たるの要件を具備して居ります故に、日本海航路の充實、殊に日滿航路の擴充には、先づ何を措いても、敦賀港の良港なる其の上に、適宜の施設の利用の道を取らなければならないのではないかと考へるのであります。

斯う云ふ情勢の下に曝されて居ります敦賀港と致しましては、目下の港灣施設に伴ふ港勢の進展は、些か此時局進展に沿はない所が多々あると思ふのであります。其爲に官民一致御協力を願ひまして、港灣振興の實を擧げる切なる希望を持ちまして、敦賀港の振興同盟會を設立致し、其使命でありまする所の、即ち明治四十年に第一種重要港灣たるの指定を受けました、其使命と機能を發揮する事に全力を傾注せん事を、希望して居るのであります。申す迄もない事でございますが、敦賀港は一敦賀の港ではございません、福井縣の港であり、日本海に面する帝國の表玄關の港として、最も優秀なる港であると思ふのであります。此港をして、其本然の使命を達成せしめて、所期の目的を貫徹致します爲には、先づ以て御當地の御有力なる各位の御後援を得まして、縣民一体となつて、全力を注がなければならんのではないかと信ずるのであります。

斯くの如く致しましてこそ國家としても又力を注ぐより以上注いで來る事であらうと信ずるのであります。又敦賀港の發達隆昌は、啻に敦賀市のみの問題ではありません。本縣縣勢の伸暢となり、延いては本邦經濟上、將又北に備へまする所の、軍事上極めて緊切なる所であると確信致しまするが故に、是非各位の忌憚なき御高說を拜聽致しまして、敦賀港の振興に關し、御指導を仰ぎ對處致したいと存じまして、知事閣下の御指導を仰ぎ、今日此の座談會を開催致しました次第であります。

次に第三期築港擴充計畫でございますが、お手許に差上げてありまする如き案を持つて居るのであります。對岸の北鮮諸港を對象と致しまして、現在の設備では聊か、聊かではない、規模が小さ過ぎる感があるのであります。イの案とロの案と二案を樹て、常宮灣を修築致しまして、一萬噸級船舶の岸壁繫留を自由ならしめたいと云ふのが其本旨であります。常宮灣は船舶の碇繫には極めて安全なる場所であるのみならず、充分なる深さを有して居ります故に、此場所に阜頭を構築致しまするならば、一萬噸級の船舶の繫留は勿論、三萬噸級乃至五萬噸級の船舶の繫留も、可能となるのでありまして日本海面に於きまする所の、各港の內で、斯う云ふ大きな船を出入せしめる所の港は、此敦賀港を措いては外にないのでございますから、是非共此本案の實現を期して、將來の、一朝事ある時のみならず、大陸經濟の發展上、お役に立ちたい

と、念願する次第なのであります。

以上は私共地元の者の考へでございますが、之に對しまして、客観的の立場から、其立場にあらせられまする各位の御観察と、御檢討を仰ぎたいと存ずる次第であります。甚だ整はないものでございますが、後から御質問を頂けば又順序を追つての際、地元の者からも詳しく御說明申上げることゝ致しまして、私の御挨拶は之を以ちまして終りたいと思ひます。今日は誠に有難うございました。

# 座談會

**敦賀市會議長**（田保仁左衛門氏）　私、甚だ僣越でございますが、皆さんの御許しを得まして、御懇談を願ふ便宜上、座長の推薦を致したいと思ひます。尙其推薦は、之又甚だ失禮と存じますが、私に指名推薦を致します事を御許し願ひたいと思ひますが、御異議はありませんでせうか。（「異議なし〳〵」の聲起る）御異議がなく賛成を得まして、私より指名推薦をさせて頂く事に致します。座長に藤原經濟部長を御願ひ致したいと思ひます。どうぞ御賛成を得たいと思ひます。（拍手）

**經濟部長**（藤原侃治氏）　甚だ僣越でございますが、御指名を受けましたので、暫く座長の席を穢させて頂きます。

## 敦賀港振興に關する一般的意見

**座長**（藤原侃治氏）　それでは之れから座談會に入りますが、那須會頭から敦賀港振興に關する一般意見を述べて頂きたいと思ひます。

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衛氏）　私は敦賀港に於きまする航路の現狀を御參考迄に申上げまして、尙それに對して御教示を頂きたいと考へて居る次第であります。航路の現狀を申上げますと、是迄先刻もお話しのありましたやうに、日本海の湖水化と云ふ事が强調せられるやうになりまして、日本海沿岸諸港は、何れも航路の擴大强化と云ふ事を叫んで居る現狀でございます。我が敦賀港は古くから、日本海に於ける海港都市と致しまして、優先的の地步を占めて居りましたので、眞先に日本海航路の先鞭を付けたと云ふ歷史を持つて居るのであります順序を追ふて申しますれば、第一に浦鹽斯德と敦賀間の航路であります。之は先刻も御話がありましたやうに、明治三十八年卽ち日露戰役後に、遞信省の命令航路となりまして、大阪商船會社が、その經營に當つたのであります。つまり之は日本海に於きまする唯一の歐亞聯絡の航路でありまして、向ふの西比利亞鐵道と聯絡致しまして、歐亞の貿易上多大の功績を擧げたのでありまして、歐洲大戰當時、西比利亞出兵當時は最も此航路が殷賑を極めたのであります。現在は北日本汽船會社が讓受けられまして、繼承致して居ります。此浦潮航路は、御承知の通り、ソ聯との關係上、現今では貿易は殆んど杜絕致しまして、從つて貨客共に激減して居ります。只一時東支鐵道の代償物資が一昨年動きましたが、目下は此浦潮貿易は非常に淋れてをります。此航路は昭和八年から北鮮へ寄港しまして浦潮へ行く事になつてをります。此航路の船は二隻ありまして、一隻月に三航海、卽ち月に六航海を行つて居ると云ふ狀態になつてをりまして、北鮮から浦潮へ行くと云ふ事になつてをります。

次に日本海の横斷航路と致しましては、之は敦賀から北鮮の方へ通つてをります航路で、朝鮮總督府の命令航路となりまして、朝鮮郵船會社が經營してをります。之は敦賀から朝鮮の元山、城津、清津を經まして、雄基に至りまして、同經路で雄基から歸つて來るのであります。此航路は北鮮の牛を移入すると云ふ事が、最初の端緖であつたのであります。其の牛の移入が漸次增加致しまして、一ケ年一萬頭以上を越へて居る狀態であります。それから尙米、豆、鰮粕等が主として移入されてをります。只今では敦賀に入ります牛が關東其他へ出てをります。內地からは雜貨、陶器、漁網、鐵製品等が移出されてをるのでありまして、之は月二航海になつてをります。

第三に北鮮敦賀線で、之は昭和三年に北日本汽船會社が自營でやつてをりましたが、昭和十二年から遞信省の命令航路になつてをりまして、之は北鮮の雄都清津と其背後、羅南及び附近の都邑が商圈の範圍であります。羅南は御承知の通り第十九師團の所在地となつてをります。貨客は著しく激增致しまして、殊に滿洲貿易の關門でありますが故に、中部日本の民需軍需の物資が、本線を利用して居ると云ふ狀態であります。それから大連、敦賀、伏木、新潟線、之は大連汽船會社が經營してをります。二ケ月に三航海と云ふ事になつてをります。

それから尙大連、朝鮮、北海道線でありますが之は島谷汽船會社が經營してをりまして、之も二ケ月に三航海でございます。其外內地沿岸航路には藤山汽船、本郷汽船鶴丸汽船會社、北日本汽船會社等がございますが、之は時間もありませんから、省略してをきますが、要するに先程申しましたやうに、日本海の航路擴大と云ふ事が叫ばれてをります爲に、此度島谷汽船が新造船を作りまして、玄海丸と黃海丸の二隻を作りまして、何れも五千四百噸でありまして、旣に昨日處女航海をして、島谷汽船の船が敦賀港に寄港したと云ふ現狀でございます。それから日滿聯絡の日本海聯絡擴充の爲に、日本海々運國策會社を政府がお作りになると云ふ事になつて居ますが、其當局案に依りますと、新潟、羅津と云ふ線を幹線として、敦賀と清津線を補助航路にすると云ふ事を聞いてをりますが、果してどうなるか分りませんが、さう云ふ事を聞かんでもないが、新潟は配船が四隻隔日に出帆する、敦賀は配船二隻で月六回運行と云ふ事になつてをりまして、私共は、此國策が果して當を得て居るかどうかと云ふ事に付きましては、些か疑問があるのであります。と云ふのは、昭和九年以來の此實績を調て見ますと云ふと、旅客も輸出する貨物と云ひ、輸出する貨物も共に新潟より敦賀の方が遙かに多くなつて居ります。之は東北地方を中心に背景とする新潟港と、人口密度、產業發展の中部日本を背景とする敦賀港との優劣は、自明の理であると信ずるのであります。故に私共は新潟、羅津線を幹線にすると云ふ事に付ては、當局に對してそれ〳〵どうであるかと云ふ事を屢々申して居るのでありますが、何うか此際一層皆さんの御協力を得まして、敦賀、清津線を是非共幹線にして貰ふやうに、それが出來なければ、兎に角新潟と同じやうに敦賀も同じやうにして貰ひたいと云ふ事を、又北日本汽船會社も今度官幣大社氣比神宮のお名前を拜借致しまして、氣比丸と云ふ船を作りまして、いよ〳〵五月六日から此北鮮の航路に使用すると云ふ事になります。之は四千五百噸でありまして、大きな船ではございませんが兎に角從來の船とは大きな船を使用する事になりましたので、之が利用に皆さん方の一段の御協力を御願ひしたいと思ふのであります。

又滿洲、朝鮮の發展及び北支の開拓から見ましても、どうしても日本海航路に使ふ船は益々大型汽船を使用する必要があると云ふ事になつて參つたので、先刻も申上げましたやうに、島谷汽船が五千四百噸の貨物船を作りまして、旣に處女航に就き、航海數も增へて行くやうになりました樣な狀勢であります。



余り長くなりますから、之で止めてをきますが、大体の概要を申上げた次第でありまして、尙御質問がございますれば、必要に應じて御說明申上げる事に致したいと存じますので、どうかよろしく御願ひ致します。

**座長**（藤原俶治氏）　此問題に付きまして、御意見なり、御質問がございましたら、どうぞ御發言を願ひます。懇談會の事でございますから、御自由な氣持で御發言を願ひたいと思ひます。

**敦賀市長**（若林義孝氏）　一寸此際御禮と將來への御願ひを申上げて置きます事は、此港に於ける鐵道棧橋の上屋の問題で、從來長官初め、本縣選出の貴衆兩院議員各位の御力添へに依りまして、上屋の改築運動を致してをりましたが、大体本年度と明年度二ケ年繼續事業と致しまして、上屋が改築せられました事を、御報告申上げて御禮を申上げたいと思ひます。

あれは明治四十年頃に出來ました上屋でございまして、極めて古びたものでございまして、細かい事は御專門の方々から御報告があると考へますが、上屋が不完全な爲に、福井縣の荷物が、敦賀を經由せずして、格好は敦賀港經由の格好で、大阪或は神戶の港から出て行くと云ふ品物が多々あつたさうでございますが、將來、此上屋の改築完成の曉は一つ是非共敦賀港の御利用を願ひましても、荷物の汚損するやうな事は、なからうと思ひますので、將來充分御期待に副ふ事が出來るやうになると思ひますので、此点御報告と御願ひとを致して置く次第であります。

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏）　日本海の港灣の振興を圖る爲に、日本海港灣協會と云ふものが、旣に出來て居つて其會で隨分敦賀港の振興に付ては私共も方々に出て主張したのでありますが、其後一向どうなつたか分りませんが、幸ひ此日本海港灣協會が、どうなつて居るかと云ふ事を。御承知でしたら御說明願ひます。

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衞氏）　一寸お尋ねしますがそれは日本海港灣協會の內の日本海聯盟ですか、日本港灣…………

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏）　日本海だけです。

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衞氏）　日本海のみの……

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏）　私共新潟に出張して、新潟と敦賀との關係に付て、いろ〳〵話した事がございますが其後一向聲が潛んで居るやうでございますから、先程から御話しがあつたやうに、新潟との問題に付きましては、今後に於きましても、敦賀市としては、努力をしなければならない、福井縣として努力しなければならない。さう云ふやうな場合でありますから、此協會の消息

はどう云ふ風になつてをりますか一寸…………

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衛氏） この日本海の港灣協會の内の日本海の…………

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏） それではありません。前にあつた日本海聯盟です。

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衛氏） あれは日本海の港で交替に會合してをりましたが、何時も利害が衝突するやうな風になりまして、一方が何か主張すれば一方はそれをさせては困ると云ふやうに、こんな事から、利害關係が反する爲に、自然に立消へと云ふやうな事になりまして、四、五年はそれきりになつてをります、隨つて自然消滅と云ふ事になつてをります。で假に申上げますと新潟が敦賀にあります牛の檢疫所を新潟にも欲しいと云ふ事になりますと、敦賀はそれをやつてはならんと云ふやうな事になります。そんなやうな事で自然に立消へとなつてをります。

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏） 一寸申上げて置きます、之は決して立消へにすべきものではないのであります。それは單なる新潟と敦賀とのさうした關係のみでなく、敦賀港と云ふ港の爲に、又京阪地方其他に於ても、隨分之を利用する事が多いのであります。だからそんな事の爲に、あの會を有耶無耶に葬ると云ふ事は吾々は甚だ拙いと思ひます。充分之をうまく利用して進んだならば、延いては敦賀の振興に資する所が多いと思ひます。一寸それを申上げておきます。

**敦賀市長**（若林義孝氏） 此一般的意見と云ふ事に關しまして相當此敦賀港を出て參りますものに、荷物もありますと同時に、人間も出て行くのであります。此人間の出て行きます内に、國策の强調に依りまして、出て行く集團移民並に滿蒙開拓の青少年義勇軍が出て參りますので其船出の際に於きまする壯行會とでも申しますか、之を從來敦賀市主催でやつて居つたのでありますが拓務省方面の移民で、日本海から大々的に出て參ります場合には新潟港を利用するものと、敦賀港を利用するものとあります。新潟より出て參ります移民に對しまして新潟縣が主催となつて、相當盛大な壯行會を行つて居りますが、敦賀の港を出て參ります場合は、敦賀市が主催で壯行會を行つてをりますので、移民自身から見れば比べる譯には參りません。併し拓務省から、大きな眼から眺めますと、福井縣は、なぜ福井縣として盛大にやらんのだらうかと、新潟は新潟縣がやつて居るにも拘らず、福井縣は敦賀市がやつて居る福井縣はそれを知らん顔をして居るのではないかと云ふやうな意見を拓務省で聞く譯であります。先般も參りました時には、明らさまに、前々



の長官だと思ひますが、名前迄も云はれて、云ふたけれども分らない。斯ふ云ふやうな事を、局長あたりが云ふて居られるやうであります。私も側で聞いて居つた譯でございますが、此点も幸にして三月頃に、長官閣下の御奬勵だけは頂いてをりますが、併し依然主催者側は市でございます。之は福井縣並に敦賀市二つの主催に致しますか、或は御當市の商工會議所或は敦賀の商工會議所と四つの名前でやりますとか、いろ／＼な方法があるであらうと思ひますが、長官閣下を初め御當市各位の御協力を得て、本縣を經由して出て行く移民に對して、一つより以上の、行を壯んにすると云ふ意味で御力添へを願ひたいと、斯う考へて居るのであります。之も敦賀港振興の一つになると云ふ意味で敦賀市民と致しましては、盛大に出來るだけの事は致して居ります。御報告を申上げると共に此点も一つ御考慮を願つて御協力を願ひたいと思ひます。

**縣町村長會長**（田中喜三郎氏） 度々伺ひますが、もう一つ新潟と敦賀港とは、どうしても航路の關係、其他で競爭の立場にあると思ひますが、吾々今日迄耳にして居る所に依りますと、新潟と云ふ港は、新潟縣に有力な方々があつて帝都に居住して居られ、なか／＼其方面に對する運動がうまく行はれて居ると云ふやうな事を聞いてをります。之は私は福井縣の運動が足らんと云ふのではありませんが、どう云ふ方面へ、中央に對しての、敦賀港の將來の振興と云ふ事に付て、どう云ふ方針を取つて居られますか、一寸承りたいと思ひます。

**敦賀市長**（若林義孝氏）先程の御挨拶にも申上げてをりますやうに、極めて此点新潟に對比致しまして、敦賀は不勉强である、今迄が立遲れして居るのでありまして、之ではならんと云ふ所から、昨年此振興同盟會なるものを結成致しまして東京方面に御在住の方、本縣選出の各代議士並に貴族院議員の内で、顧問と云ふ格で此同盟會に參劃を願ひまして、將來一丸となつて、御力添へを願ふと、之がまあ昨年の十一月に出來ました振興會でございます。過去に於きましては、新潟或は、伏木、境等を飛抜けまして、四百幾十萬圓と云ふ築港を完成致しました爲に、之で先づ立派だと云ふので、安心しきつて居つた譯であります。所がそれが立遲れの結果となつたのであります。只今の御注意は、此振興會に依つて一つ聯絡を起さうと云ふ事ななつてをります。尙此点出來ましてからまだ半年より經つてをりませんし、そして市長の更迭と云ふやうな事がありまして、此点まだ充分な聯絡をつける所迄行つてをりません。今日斯く云ふ事を申上げて

之を機會に、より御力添へを願ひたいと思つてをります。

## 海陸施設の見地より考察せる振興策

## 産業貿易交通運輸上より見たる振興策

**座長**（藤原侃治氏）　便宜上、此敦賀港振興に關する項目が、五つに分れてをりますけれども、此最初の三つ、一二、三は何れも關聯して居るやうに思ひますので、敦賀港振興に關する一般的意見、海陸施設の見地より考察せる振興策、産業貿易、交通運輸上より見たる振興策、之に付ていろ〱御懇談を願つた方がいいのぢやないかと思ひますので、一括して御意見を承りたいと思ひます。

**敦賀市會議員**（辻野長太郎氏）　本日の座談會に主催者側の一人と致しまして、列席させて頂きまして、誠に光榮に存じます。本日の座談會に參りましたのも長官閣下初め縣當局の方、並に福井市の齋藤市長其他御當市の有力な方々の御集りを願ひまして、私が敦賀の現狀、並に將來進むべき道に付きまして、いろ〱御意見を拜聽したさに參つたのでございます。此振興會を組織致しました所以は、先程田中町村長會長の申されたやうに、新潟、敦賀と云ふ問題が熾烈となりまして、玆に發端を開いた譯でございますが、其際に長官代理として、中土木課長さんがお出で下さいまして、其節も及ばずながら、少しくお饒舌りさせて頂きまして、課長殿にもお願ひ致して置きましたが、要するに人に依賴心を起してはならないと云ふ事は自覺してをりますが、矢張り敦賀市としては、どうしても福井縣或は御當市の御力添へを頂かなければどうしても自力に依つて、新潟などを向ふに廻して、物質的、其他各方面に於きましても、こんな事を申上げてどうかと思ひますが、全く駄目のやうに、私共感じますので、痛切に、御市及び縣當局のお力添へを願ひたいのであります。大体に於きまして、將來敦賀市として取るべき方針は、市の幹部である市長或は市會議長並に那須會議所會頭からも、只今申上げましたやうに、尙又お話もあるであらうと思ひますが、吾々は只平凡に、御市及び縣當局に御縋りしたいと云ふ事に付ては、矢張り各方面の御協力、及び福井の關門として敦賀を御利用下さる上に於きまして、又御市の有力なる方が、敦賀の吾々爲



政者、と申しましてお恥しうございますが、斯うした道に進んでをりますものと共に、先づ人の和を作つて頂きたいと思ひます。過般の振興會の發會式の時中土木課長さんが、お出でになりました時も、此間重工業の方に付て、軍部當局の方々が御視察されました時にも、經濟部長さんがお出でになりまして、いろ〱吾々の意のある所を御聽取り下さいましたが、何時も縣當局に於きまして、歷代の長官が更迭される際には新聞にもよく載つてをりますし、又吾々の先輩の田保さん等は、何時も知事閣下の御意見を聞いて歸られます事は、第一に福井縣の織物、第二に敦賀港の振興と云ふ事に付て、御就任當時必ず言明されるのでありますが、素より長官閣下には御多忙でもあり、いろ〱事情もある事でありませうから決して御不足申上げる譯ではございませんけれども、敦賀の振興と云ふ事に付て、一層の御力添へを願ひたいと思ひます。現福井市長の、齋藤さんも、曾つて長官をして居られた時にも、敦賀に御越し頂いた事もございますが、其數は只數へる位でありまして、御在任中、余り數多く敦賀に御出で願へなかつたやうに、吾々は感じてをります。現在福井の市長であらせられる齋藤市長は、どうか我が敦賀市長の若林市長を、弟分と思召されまして、尙又縣會議に於ても田保君小谷さん等縣の幹部として、兩君を今少しく決して御不足申上げる譯でございませんが、今一層の御後援と、御助力を願ひたいと思ひます。又會議所方面に於きましても鎌田藤本兩副會頭に於て敦賀會議所に御力添へを願ひたいと存じます。私平凡な事を申上げるやうでありますが、地圖から見まして、福井から直線を記すと云ふ事になると、敦賀は南へ外れて一見鯨を獲る銛の如く行きつ戻りつするやうな氣分があるので、三國の如き位置にあると、今少し御助力があるではないかと、只子供臭いお話ですが、對岸と云ふ事になると敦賀からやる位なら一層大阪、神戸の方へやつた方がよいぢやないかと——或は運賃其他の關係もありませうが、どうか皆さんの御盡力に依り、如何に大敵である新潟に對しても多少は報ひ得られるだらうと吾々は及ばずながら考へてをります。御不足を申上げる譯ではありませんが、より一層の御協力を御願ひいたしたいと思ひます。

**縣絹人絹糸布輸出組合常務理事**（畑岡彰氏）　私は縣絹人絹糸布輸出組合の常務理事の畑岡でございます。どうぞ御見知り置きを願ひます。私は此の織物の輸出と、敦賀港の利用と云ふ事に付て、組合員といたしまして、本問題に頭を使ひかけたのは、先づ四、五年前でございます。此當時北日本汽船會社の社員の方に、態々御越しを願ひまし

て會議所に於て懇談いたした事もございます。其時非常に北日本汽船會社といたしましては、此問題に付きまして興味を以て、此福井の織物に對する敦賀港の利用と云ふ事に付て、御盡力を願つたのであります。其後色々の事情が起りまして、立消へになつてをりますので、殘念に存じてをります。織物の外國貿易に付て見ると、要するに大体に於て、神戸、横濱、大阪なんかを利用するのが金額に於きましては、縣年産一億圓ある中で、九千萬圓は、其方の品物だらうと思ひます。一面織物の滿洲、朝鮮此両方面の需要量を見ますと、昨年の比率を見ますと滿洲に一ケ年三十萬反、朝鮮に於て、約四十萬反でございます。それを金額に直しますと、概算いたしまして、約一千萬圓と心得てをります。此敦賀の貿易表を拜見いたしますと、一千五百七十九萬余圓となつてをりますが之は福井縣が、滿洲又は朝鮮へ出す荷物全部を敦賀港を完全に利用いたし得ましたならば、此一千五百萬圓が二千五百萬、三千萬圓にする事は決して困難な事ではないと考へますので、敦賀の關係當局の方は、之を目標に御進みになると云ふ事は決して至難な事情でないと考へます併し之は云ふべくして簡單な事ではございませんが、此点に付きましては、どうか吾々當業者といたしまして、考へて居る所を充分御酌取り下さいまして、之に對して熱意ある施設を施されまして、又先程仰有いましたやうに、人の和を求め、福井縣の織物業者が、滿洲又は朝鮮に品物を出す塲合には、現在利用してをります所の、大阪を利用する以前に、直ぐにも敦賀を利用すると云ふ氣持を抱かしめると云ふ事が、先づ根本問題ではないかと考へます、荷物を送る以前に於て、人間を送る、今度滿洲方面へ澤山の役員を、私の組合から派遣いたしましていろ／＼調査する事になつて居るのでありますが、其塲合に於きましても、荷物に利用する迄に、人間を先に、敦賀港を利用して滿洲へ出す、朝鮮へ出すと云ふやうになれば、先づ人間を以て道を開け、然る後に荷物を送ると云ふ事が必要であると思ひます。此点に付て、私は別に之と云ふ具体的な案を持つて居りませんが、滿洲、朝鮮貿易上に於きまして、敦賀と云ふ事を聯想する爲には常に吾々の感じてをります事の一端を申しますならば、稅關の出張所を福井市へ設けられたならば、之は非常に利益だと思ひます。稅關手續などは、神戸、大阪は非常に簡單でございますが、敦賀とは聯絡が圓滑に居らん爲に、不便を感ずると云ふ事が多々あるのでありますので斯く云ふ点から申しましても、福井の方へ、出來れば、此稅關出張所を設けて頂けば、吾々業者としても非常に利便を得るのみならず、當然敦賀港の振興といふ事になるのでありますが、悲しいかな、度々此問題に付てはお願ひして居りますけれども、まだ此出張所の設置といふ事の、實現を見ない譯でありますが、此点に付きましては、一つ是非一日も早く福井市へ稅關出張所を御設け下さいまして、さうなれば、荷物を出す塲合に、先づ第一に敦賀といふ事を考へまして、然る後に大阪方面へ送るといふ事になると考へますので、此点是非共御願ひいたしたいと思ひます。併し若し此の稅關の出張所を設ける事が、至難の事情がございますれば、敦賀港を利用する爲に、福井の方へ經濟駐在員といふやうなものを御設け下さいまして、敦賀の方からこちらへの方へ御見へになつてをりますれば時々刻々、其必要に應じまして、荷物を輸出する上に於て其方に御問合せをする事が出來るから、非常に便宜に取計はれると考へますので、之は第二段の策として、お願ひして置きたいと思ひます。又福井縣としての立場からも、敦賀港を是非利用しなければならないといふ点からいたしまして、敦賀の方へ織物に精通し多少織物に御經驗のある適當な方を派遣、駐在せしめまして、兩者相俟つて其機能を發揮されるならば、敦賀港の振興上に、資する所が少くないと信ずるのでありますから、此点一日も早く實現して頂きたいと考へるものであります。



**座長**（藤原侃治氏）　稅關の出張所の問題に付て何か岩川さん…………

**敦賀稅關支署長**（岩川繁義氏）　稅關の出張所を福井市に置くといふお話でございますが、之は誠に結構なことで御座いまして、私等から見ましても、最近はいろ／＼な統制とか、いろ／＼な法令が出まして、輸出振興に關して、或る点に於ては、輸出さへ阻害しはしないかといふやうな觀方も、なきにしも非ずでございますが事變下に於ける國際收支の調整上止むを得ざることゝ考へられますが、稅關自体としても、是等に就ていろ／＼考究して居るやうな次第でございます。今年の稅關長會議に際しましても、其点は特に注意を拂つて居るやうな次第であります。現下の情勢に於ける稅關の行政上の施設改善とか、或は關稅事務の管掌上の改善とか、或は輸出振興を阻害するやうな事項等に對しては、是非改善を計らうと云ふ事が、稅關長會議でも相當檢討されて居るやうな次第ですが、只今の所出張所を設ける事は困難ではないかと思はれます。併し保稅工場とか、保稅倉庫とか云ふやうなものを設置せらるれば、出張員が派遣されます便宜があります、現在春江に島崎保稅工塲があり、其所へ出張してをりますし、最近武生に目下保稅工場の設置が進捗中でございます。さう云ふやうに保稅工場を設けて

頂くとか、保税倉庫を作つて頂くと云ふ事になりますれば、宜しうございますけれども、現在の所では、只今の様な御希望に副ふ事は至難であらうと考へます。此点に付きましては、何とか他の機關を以て、聯絡を計つて、常に税關に對して、若し不利、不便のやうな事がありますれば、御申出で下さつて、腹藏なく意見を叩いて下さいますれば、吾々も研究させて頂くと云ふ事になり、大變結構だと考へてをります。

**縣絹人絹糸布輸出組合常務理事**（畑岡彰氏） 只今税關のお方から、此問題に付きまして、御懇篤なる御説明を頂きまして、有難うございました。私共の考へと致しましては、素人考へでございますが、大体一保税工場、一保税倉庫にさへ税關の出張所を置かれるのでありますから、福井縣全体の輸出織物の取扱ひと云ふ点から考へて運動如何に依つては實現は至難ではないと考へてをります。一保税工場にでも出張員を置かれるのでありますから、福井の織物全体が保税工場と云ふものに、假に置かれて居ると云ふ意味に於きまして、出張所を御設け下さる事を、重ねてお願ひして置く次第であります。若し之が出來なければ、只今申上げましたやうに、他の第二段の策を是非講じて頂きたいと思ひますが、出來るならばどうか此の出張所の設置に付て御考慮を願い度ひと思ひます。

**敦賀税關支署長**（岩川繁義氏） 只今の畑岡さんの御話はよく判りました。此出張所の問題は、輸出品の取扱と云ふ意味で、或は出來得ることと思はれますが、之は又それ〴〵當業者の間に於て、お話がありますれば、私の方に於ても、何とか善處致したいと考へます。

**敦賀市會議員**（小林千代三郎氏） 一寸畑岡さんにお尋ね致しますが、此輸出人絹なり、或は織物に對しましては、福井の方の組合に加入をしなければ、此輸出の物品を荷扱ふ事は出來ないのでありますか、最近の實例でございますが、敦賀方面に於きまして、パレス其他の人絹物を買ふて、之を滿洲方面へ送つて、大いに、大々的に敦賀から輸出するやうに、先鞭をつけると、斯う云ふので福井の方面に當つた處が、福井の業者の曰くには、君方が輸出するならば、勝手にしたら宜しい、けれども税關迄行つたら最後之は吾々組合員に於て差止めて仕舞ふ。若し差止めない場合でも、五十日間、六十日間打擲つてゐて、突返される。斯ふ云ふ事でありました。それでは困るネそれならば組合に入つたらどうか。吾々は敦賀の港から成るべく品物を多く出るやうにしたいと思つて、それで滿洲方面へ、敦賀の人も、此商内をしやうと考へた、所が組合員になるには、壹千圓や貳千圓や參千圓の加入金を



積んだ所が駄目だ、それはお止しなさい、全然あきません。斯う云ふ返事であつたのでありますが、之はそんなやうになつてをるのでありませうか、如何ですか？。

**縣絹人絹糸布輸出組合常務理事**（畑岡彰氏） 只今の御質問に依りまして、一寸輸出組合の機構の問題に關聯するやうでありますから、少し簡單に組合機構に付て一言申上ます。此絹人絹糸布輸出組合と申しますと、現在の貿易組合法に依りまして、新しく生れました組合でございまして、此組合は貿易法第八條に依りますと、組合員以外と雖も、絹、人絹、絹織物、人絹糸又は人絹織物に關する限り之を輸出せんとする場合は、其組合の統制に服従すべしと云ふ事になつてをります。無論組合員の方で、お出しになる場合も、輸出統制に服従しなければならないと云ふ事になつてをります。それならば組合員以外の方は、輸出する手續がないかと申しますと、決してさうではないのでありまして、組合員以外の方でも貿易の發展の爲に輸出したいと云ふ事でありますれば、組合の統制に服従する必要はありますが、お出しになる方法は、簡單にあるのであります。簡單にありますが、此人造絹糸、人絹織物に關する限り總て政府の統制命令が出てをります爲に、許可制になつてをりまして、圓ブロックに關する限り、内地と同じやうに、本月は何万反、次は何万反と云ふやうに、許可制となつてをるのであります爲に、入札を以て許可の權利を取つて、出して居ると云ふのでありますから、さう云ふ組合員の以外の方でも、其入札に加つて許可を取り、組合の統制に服従して出すと云ふ場合には、出されるのでありますが、多少此間に組合員以外の方は、組合員とは違つた手續を取らなければならないと云ふ事を、御承知を願ひたいのであります。具体的に申上げても宜しいのでありますが、簡單に申しますと組合に加入と云ふ事に付きましては、過去の實績と云ふ事を基本にして、組合は如何なるものと雖も、組合に加入すると云ふ事に付て、審議すると云ふ事になつて居るのであります。過去の實績保有と云ふ事が、規定されて居るのであります。過去の實績保有と云ふ事になりますと、所謂組合員外としての、實績を相當保有されまして、然る後に申込まれれば、加入を許可すると云ふ事になつてをります。從つて過去の實績を保有せられません方は、今日から輸出貿易をやつて見たいと云ふので、組合員としての、所謂恩典を受けやうとなさつても、至難でございます。

先づ第一に組合員以外としての制統に服従されまして、相當の實績を保有されて、然る後に組合に加入を申込まれれば、組合としては、審議を致しまして、加入を許す

と云ふ事になつてをります。千圓、貳千圓、參千圓と云ふ莫大の加入金で以て、縛つて居る譯ではございません加入金としては定欵の命ずる所に依つてやつて居ります所謂過去の實績保有者と云ふ事が、組合加入の根本義であると考へます。此点御了承を願ひます。

**敦賀商工會議所會頭**（那須吉兵衞氏） 先刻畑岡さんから朝鮮、滿洲等に、先づ人を出すには、敦賀を利用する必要があると云ふ御說でございまして、大變結構な御說と承りましたが、從來本縣の人でも朝鮮、滿洲に御出でになるのには、多くは關釜聯絡船でお出になつて居るやうでありまして、私共は敦賀の立場から致しまして、非常に遺憾に思つて居つたのでありますが、此席上でさう云ふ御說が出ました事は結構でございまして、滿洲に對する最捷經路と云ふ事を標榜して居ります、又最捷經路に違ひないのでありますから、福井縣の方が、向ふの方に御出でになる時には、敦賀港の北鮮航路を御利用下さると云ふ事を、是非共お願ひ致し度いと思ひます。

近頃は大分利用されるやうになりまして、此間縣會議員の方が、北支に御出でになりました時にも、敦賀港から御出でになつたのでございます。斯くの如くにして、精々福井縣の港である敦賀港を利用して向ふに行く、往復共あの航路を御利用願へれば結構でございますが、いろ〳〵又御都合もございませうから、せめて御出での時とかお歸りの時には、この航路を御利用して下さいますやう希望してゐるのでございます。どうぞ今後は御利用を願ひたいと思ひます。

尙此機會に一寸申上げますが今迄敦賀に於きましても、北鮮視察の爲、相當の人が行つて居りますが、まだ甚だ遺憾の点がございました。今度北鮮、滿洲視察に約二十五名或は三十名行く事になつてをります。今迄は相當勸誘をしても行かなかつた方々が、今度は自ら進んで、私も行く〳〵と云ふやうな狀態でありまして、北鮮との關係を重要視して參りまして、敦賀の人も、矢張どうしても、所謂百聞一見に如かずで、實際に行つて見なければ、意見も樹てられないと云ふので自ら進んで視察に行くと云ふ人が、續々と出られる。之は敦賀市民も大いに目覺めた一端であらうと思ひまして、喜んで居る次第であります。どうか荷物に於きましても、人に於きましても、御利用下されば大變結構と存じます。

尙それから此所に一寸付加へて御願ひ申上げたいと思ひますのは、今度敦賀に滿鐵の方の施設と致しまして、朝鮮滿洲及び北支に對する案内所が出來たのであります。三月一日から開始されて居りますが、貨物の方に於きま



しても、又人の方に於きましても、總て滿鐵の案内所で斡旋の勞を取ると云ふ事になつてをります。若し御旅行なされる場合は其プラン、大体の御豫定を御示しになれば費用に於ても、時間に於ても、無駄のないやうに、總て遺憾なきやう、色々斡旋して下さる、貨物に於きましても、運賃關係、時間關係から總て、詳しく、御說明下さると云ふ事になつてをります。まだ開設早々でございますから、事務所は商工會議所の中に駐在員が居りましてそれを利用して頂くと云ふ事になつて居りますから、どうぞ、斯う云ふ機關も精々御利用下さいまして、荷物も人も頻繁に動くやうにお願ひ致したいのであります。御照會下されば、早速其書類を送つてくれる事になつてをりますから、どうか御記憶下さいまして、精々御利用を下さいますやう、此機會に御願ひしてをきます。

**敦賀市會議員**（辻野長太郎氏） 畑岡さんに一寸御伺ひ致しますが、先程の御話に依りますと、此人絹織物を輸出されるに當りまして、神戸の税關に於ては非常に手續が簡易であるが、敦賀はどうもさう行かないと云ふ事でございました。之は神戸税關出張所が福井に開設されて居る譯でもありますまいが、同じ海關を掌る税關として、神戸と敦賀と、どうして手續がさう云ふやうになるかと云ふ事を、吾々は分りませんが、畑岡さんは、さう云ふやうな事を御存じでございませうか、別に福井の方へ敦賀の税關の出張所を設けない迄も、神戸の如くに税關手續をやれるやうに、税關の方へ交渉をされたら如何でございませうか、甚だ素人臭いお尋ねを致しますが。

…………

**縣絹人絹糸布輸出組合常務理事**（畑岡彰氏） それは決して神戸の税關が法規を枉げて簡單にする、敦賀の税關が嚴重にして居ると云ふ意味ではございません。私の申上げたのは、神戸、大阪の方に於ては、輸出人絹織物を常に澤山取扱ひ、織物に對して馴れて居ます關係上、一見して輸出免狀の作成、其他色々の手續に於きましても簡單に行きます。けれども敦賀の方は、此仕事に馴れて居られぬ關係があるのではないかといふやうに考へて居ります輸出免狀の作成又は返送といふやうな事は、簡單のやうでございますけれども此の取扱が敏速に行くかどうかは組合員としては仕事の上に之れが非常に差支へを生ずる場合があるのであります。法規上どうの斯うのといふ意味ではございません。所謂需要が少なければ少ない程、所謂手續が馴れないといふ事になります。假に福井から敦賀に問合せを致しましても、其間に一日餘り、それが敦賀で分らない事で神戸に問合せるとなると其間二、三日間といふやうに相當の日數がかかるといふ事になります

ので、此際百尺竿頭一歩を進めて、福井に出張所を置いて戴いて、御出で願へば敦賀の利用上大變結構だと思ふのであります。

**敦賀市會議員**（脇坂貞二郎氏）　只今畑岡さんから福井の人絹輸出に關する税關の施設手續等の問題に關聯して敦賀港の利用に付て御話がありましたが、成る程さういふ点も御尤でありますが、一面又敦賀港の不振の最大の原因をなして居るのは、此船車運賃が京阪神方面より比較的高いではないかといふやうな点が問題となると考へてをります。現在此商船會社の低運賃政策に禍されまして敦賀經由の運賃が――御承知の通り商賣人は――運賃は丁度水の低きに流れるが如く、荷物は運賃の安い方に自然に流れて行くので、之は現在の經濟機構がさうなつてをりますので、之は尤もだと思ひますが、目下敦賀としても北鐵、滿鐵、朝鮮鐵道及び此船會社に船車聯絡又は船のみの運賃に付て、劃一運賃問題に付て、要路に迫るといふ事が敦賀の重大問題と考へ、又此運動を一つ人絹に御關係の深い福井の方には敦賀と相共に協力致しまして、船會社に船車運賃の問題に付て、御助力を願ひたいと考へるので、一言御願ひする次第であります。

**縣織物同業組合副組長**（内田清氏）　只今運賃の御話がございましたが、實は私共前に成る可く敦賀港を利用すると云ふ事に致したいと思ひまして、之は奉天向の荷物でございますが、大連迄船で大連から鐵道便でやつたのでありますが、之は運賃の關係りよりも、寧ろ之は船數の關係から出來なかつたやうな譯でございまして、神戸から出しますと、大阪商船は客船に積むのでありまして、殆んど毎日船が出る、只今運賃が高いと云ふお話でございましたが、之は朝鮮經由の方が運賃は安かつたのでありますが、併し船數の關係で、どうしても月末に間に合はせなければならんと云ふやうな場合でありまして、どうしても利用出來なかつたのでありますから、今少し回數を増して頂きたいと云ふ事を、申上げたのであります。

それでは荷物を餘計出してくれるならば、増してやると云ふ事でございまして、斯う云ふやうな話で結局纏つたのでありますが、玆に月三回となつてをりますが、せめて七、八回出して頂いたならば、可成り敦賀港を利用する事が出來るのではないかと考へます。

それで一例を取つて見まするならば、生地輸出一箇月約三万反見當でありまして、一反假に四十錢として十二万圓でございまして、約六百万圓になります、其内約六割は福井の檢査所で檢査されるのでありまして、其三百六十万圓と云ふものが福井で檢査される。それは殆ど全部が滿洲向でございまして、之を敦賀を經由して出すと云



ふ事になれば、かなり大きな數字になると考へます。併し統制の關係で、之が減ると云ふ事になりますれば、別問題でございますが、兎も角此航海數を増して頂くと、非常に便宜を得る譯でありまして、一度大阪で積替へてやりますと、非常に日數がかかりますが、敦賀で通關手續をしてやりますと、最も短いものは一週間で奉天へ行く、長くかゝつても十二、三日間で行くと云ふやうな狀態でありまして、此点吾々としても便利を得て居るやうな譯でございます。

今一つ申上げたいのは、現在どうも滿洲國の織物が段々奉天に集中する傾がありますので、從來はハルピンへ買ひに來たお客さんが、いろ／＼な關係もございませうが奉天に買ひに來ると云ふやうな狀態で、只新京或はハルピンへ、相當に荷物が出るやうになりますと、北鮮經由で、吉林を通過して、新京或はハルピンへ出る荷物が、可なり利用出來ると云ふ事を考へてをります。

從來私共が計畫を致しました時には、譬へば新京で荷物を渡しまして、向ふの通關の事務が遲れるとか、或は貨車が少ない爲に期日が遲れると云ふ爲に、船運賃は非常に勉强して頂いたのでありますが、利用が出來なかつたやうな事情があるのであります、で此年産額一億五千万圓の織物が將來圓ブロック向の制限が撤廢されると云ふ事になりますれば、約半數は滿洲へ行くと云ふやうな時代が來はしないかと考へます。さうすると現在の生産狀態が増へんものとしても、約七千五百萬圓を、敦賀を經由して出し得ると云ふ事は强ち不可能ではないと考へます。現在の狀態はいろんな点に難關がございますが、此点も敦賀の方はいろ／＼と計畫をお進め頂いたならば宜しいと思ひます。

**座長**（藤原侃治氏）　此機會に、十四年度から縣の方で清津に駐在員を置く事に致しまして、大体人選も決りましたので、その事に付て商工課長から一度御説明を申上げて、御了解を頂きたいと思ひます。

**商工水産課長**（福井利一氏）　只今經濟部長から御話のありましたやうに、此九月から朝鮮の清津に縣の駐在員を置きまして、さうしまして、本縣と北鮮地方の貿易關係は、之を御覽になると分りますが、大体三分ノ一の貿易關係を示して居りますので、更に此方面に於きまする産業關係を益々振興せしめる事は、獨り敦賀港の發展のみならず、本縣の産業振興の爲に、誠に結構な事であるのでありますので、今回此の北鮮地方並に進んでは滿洲方面に於きまする産業經濟の事情を調査致しまして、相當に之等に對する對策を研究したり、又本縣の物産を彼地に紹介し又販路を更に開拓致しまして、大体北鮮と本縣と

の貿易關係を大いに振興したいと云ふ意味で、縣と敦賀市が協力致しまして、今回清津に駐在員を置く事になつたのであります。人選も終りまして、其駐在員の方は、長らく横濱の貿易商岩井商店福井出張所主任を勤務せられて、貿易關係に於きましては、相當に經驗のある方で此際奮起を願ひまして、御快諾を得て、近く清津に駐在する様になつて居る譯でございます。
此機會に御報告申上げ、又將來其駐在員を充分に活用して頂き、聯繫を取つて頂いて、益々貿易關係を良好ならしめて行く様に、御配慮を煩したいと思ひます。駐在員も今日見えてをりますから、御紹介申上げて置きたいと思ひます。駐在員に決りました宮崎爲三氏で御座います
、(宮崎駐在員を一同に紹介)

**清津駐在員**(宮崎爲三氏) どうぞ宜しく………。

**敦賀商工會議所議員**(吉田忠吉氏) 只今内田さん等から御話もありましたが、現在のこの船腹等に關する狀況其他に付て一言申上げたいと思ひます。この北鮮貨物は航路開始當時は、貨物の出貨誘致に各地へ出かけましたが、遂年增加致しまして、現今では、各船が貨客共に滿船であります。從つて、多數の積殘りの貨物を生ずると云ふ盛況であります。北鮮三港を經由する滿洲國、奥地行の貨物は、昨年八月に北鮮地方一帶が稀有の水害に襲はれまして、各地鐵道の不通となり、清津、羅津の如き身動きもならん様な滯貨となりまして、兩港は何れも、數箇月間も停滯して、大延着を來しました。其の後追々順調に進みつゝあるけれども、今後滿洲國行の貨物の出貨に相當影響を及ぼしますから、只今御紹介を受けました宮崎さんが、今度本縣より清津駐在員として御赴任されると云ふ事で、誠に結構な次第であります。
何卒右の事情を特に御調査下さいまして、將來圓滑なる纖送が出來て荷主に安心を與へる様に不斷の御努力を御ねがひ申上げます。それから福井から御出荷の仁川行人絹布は、從來阪神經由で船積みされて居りましたが、本縣特產物の事でありますから特に敦賀、仁川間船運賃を引下げる事を船主に交涉致しまして、昨年より敦賀經由で御出荷をして頂きまして、一ヶ月三回の島谷汽船の定期船を利用してをります。尙之れ以上輸送の便を計りまして、現在御地の人絹で、仁川行を舞鶴經由にて御積出しになつて居るものも、是非敦賀積にお願ひしたいと思つて居ります。又奉天行の人絹は昨年福井合同運送會社が奉天に保稅倉庫を設置されまして、福井より敦賀へ汽車積で到着しまして、敦賀で通關手續を終つた上、再び汽車積で奉天へ向けて發送してをります。御承知の通り鮮滿行貨物は激增しました爲に、關釜間の航送は、鐵



道省に於て、發送數量の制限をしてをりますが、幸ひ敦賀運輸事務所當局等の御努力と、稅關で通關上、多大の便宜を與へて下さいます爲、一週間內外にて發送の承認を得ますので、現在は順調に輸送が出來まして、好評を受けて居ります。どうか今後は海陸運共に、一層敦賀港を利用される事に、御後援を仰ぎたいと思ふので、この機會に於て特に御願ひ致します。
次に私は各位に特に御援助を蒙り、是非共實現したいと思ひますのは、敦賀大連間の直通航路を開きたいのであります。從來本縣の特產品たる藥工品中大連行のものは大部分伏木を經由して輸出されて居りますが、之は甚だ遺憾な次第でありまして、之は敦賀港から、大連行の船便の不足が原因してをりますので、この際敦賀大連間直通航路の開拓は緊急事でありまして、更に北支への航路延長を見れば、興亞の新情勢に沿ふものと存じます。之は昨年敦賀商工會議所から、大連汽船會社へ陳情してありますが、何分時局柄船舶拂底の折柄實現せぬを遺憾に思つてをります。御承知の通り神戶より大連行の優秀船が殆んど日發就航致してをりまして、貨客共に積殘されて居ると云ふ狀態であります。從ひまして同航路に對しまして、敦賀港は一見餘程不利な様に見えますが、神戶發汽船は途中門司へ寄港して大連へ直航して居ります關係上、敦賀大連間の距離と、神戶大連間の距離との差が僅少である場合、敦賀は相當有望視されてよいと思ふのであります。この兩者の差は、僅々二十哩餘敦賀が遠い位でありますが、之は假りに十八哩の快速船を使用致しますれば五十時間で大連へ到着致しますから、幸ひ本航路の開始を見ますれば、縣內及び附近の出荷貨物を完全に吸收輸送し得るのみならず、旅客の便も亦甚だよろしく、必ず敦賀港を利用される事と確信致します。
新潟は縣から大連汽船會社へ補助して本年度から新潟大連直通航路を開いてをります。どうか本縣に於かれましても特に注目下さいまして、是非共本航路の實現に御盡力下さいまして將來敦賀港をして、眞に第一種重要港灣の使命を果し、鐵道棧橋には北鮮、浦潮航路船が繫留され、縣岸壁には大連直通船があると云ふやうにして、敦賀港に一段の光彩を添へ益々當港の發展する様御後援を切望致します。

**衆議院議員**(添田敬一郎氏) 一寸私は御伺ひ旁々、御願ひ致したいと思ひます。敦賀港の振興の問題は、隨分長い間の問題でありまして、港灣築港計畫が出來た當時以前よりの問題でありますが、從來は兎角敦賀の敦賀港である。國からは補助は貰ふけれども、其補助の關係を離れて、國と敦賀との關係も、餘り密接でなかつたやうで

あります。又福井縣の敦賀と云ふよりも寧ろ敦賀市の敦賀港として、今迄發達して來たのである。斯う云ふ様な感じがあつたのでありますが、近來斯う云ふ点に付て、敦賀の人も、市民の人々も非常に自覺されて、各種の計畫を樹てられまして、又振興會の出來たのも其爲で、又今日のこの福井市に會合が開れたのも、卽ち目覺めました結果であらうと思ひまして、私は非常に敦賀の爲に慶祝に堪へないのであります。

私は今日のこの會合に列席しまして、皆さんの御意見を聞いて感じました事は、今日のこの會合は頗る有意義であると思ひます。之は敦賀の振興の爲のみではないと思ひます。之は福井縣の産業貿易の一つの革新時期が生れて來たのではないかと思ふのであります。港を發達せしめんが爲には、港の設備を良くする。或はその他の取引關係に便宜を與へる上に於きまして、非常なる努力を要し、改善を計つて行くと云ふ事が、必要であると思ひますが、先程以來いろ〳〵この人絹關係の方々より御話があつた如く、福井縣の産品がどうしても敦賀港を經由しなければならない様に、産業が段々發展して行くと云ふ事が、敦賀港利用の爲に必要であると共に、福井縣全体の産業の爲から見ましても、福利民福の上から云ふても、必要な事であらうと思ひます。譬へば人絹の問題に致しましても滿洲には相當福井縣の人絹と云ふものが、從來輸出されて居るのでありまして、又將來も北支に對しても、相當の道が開かれて行く、現在開かれつつあるのでありまして、之を敦賀の港を經由せしめるが爲には敦賀港に相當の設備をしなければならない。或は關税の設備も完全にしなければならないと云ふ事も大事で御座いますけれども、この商業組織と云ふものを、敦賀に港がある以上は、敦賀を經由して行く可きやうにすべきものでありまして、この設備ばかりやつても、却つて難しい、人絹組合のお話も出まして、之も色々の事情もありませうが、私はこの意味に於きまして、之を十分研究する必要があると思ひます。私は曾つて、こゝに鎌田さんがお出でになりますが、織物組合の狀況に就ても聞いてをりますが、本縣の織物は、百年に近い經驗を持つて居る、非常に古くから發達して來て居るのでありませうが、其の販路はどうかと云ふと、遠くは或は印度、南洋方面に輸出される品物に致しましても、實は大阪、神戸の商人に依存しなければ、この工業が立つて行かんと云ふ様な關係もある。之等は私は今日の時代から見るならば、織物組合が數十万圓の經費を使つて、この事業を經營して居られる以上は、何か直接輸出の道を講じたらどうか、直接に海外に於ける需要供給の關係を充分調査して、最善の努力を拂つて行く事が、必要ではないかと云



ふ事を、時折お話し申してをるのでありまして、素より之は長い間の商習慣で、之を一時に變更すると云ふ事は中々容易な事ではないのであります。如何にも私は素人で御座いますが、併し今日は、只從來の商習慣にのみ、依存する事の出來ない狀態であると、斯様に存ずるのであります。殊に東亞に於ける再建設をしなければならない。再建設は何を目標とするかと云ふと無論支那政府の反省を求めると云ふ事が、第一で御座いますけれども、將來支那と日本との關係が、滿洲に於て、一つの經濟ブロックが出來る事に依つて、再建設をして行くと云ふ時に於て、單に敦賀のみの問題ではない、産業が充分發達し、滿洲或は朝鮮、北支との關係に於て、どうしても福井縣と云ふものは、重要なるポイント、位置を占めると云ふ事になれば、敦賀の振興は、自然に發展して行くのであります。で敦賀市の人々が、敦賀市の爲に、非常に御盡力になる事は、必要な事で御座いますが、併し之がこの福井市に開かれて福井縣を目標とすると云ふ事である以上は、福井縣に於ける總ての産業を、この意味に於きまして、宜しく改善して行かなければならない、商業機關も改善して行かなければならない。この意味に於きまして、今回御赴任になりました名譽會長たる知事閣下に於ても特に御配慮を煩したいと思ふのであります。

只に産業ばかりではない、先刻お話しのありました移民の事業、この問題は現在に於きましては、事變の關係によりまして、都會に於ても、農村に於きましても、非常に勞力が不足してをる時でありますから、今直ちにどう斯うと云ふ事は出來ないのでありますけれども、福井縣の青年は、將來或は滿洲に於て、或は北支に於て、大いに活動をする素質を充分に持つて居ると考へるのであります。從つて、斯う云ふ移民の問題に致しましても、充分留意されたい。

敦賀の港の施設、其の他に於ても御盡力を願ふと共に、本縣の産業なり、貿易に於きましても、殊に滿洲との關係のある問題が、着々是非とも着手され、改善されて行くと云ふ事は、極めて大切なる事であらうと思ひます。この意味に於て、私は斯う云ふ様な會合が、只敦賀だけの問題でなくして、縣全体の産業、其の他の問題を中心として、研究をせられる、其機會が今日初めて生れたものと、實は考へるのであります。この意味から、私は、今日大變遲刻を致しましたが、出て參つて皆さんの御話を謹聽して、内心頗る愉快に感じ、又感謝を致して居る次第であります。先程の御話に移民の事が御座いましたが、何か本縣に之に付ての御計畫があるのでありますか、どう云ふ風に進んでをりますか、之は縣の當局からでも

よし、青年會長からでもよし、何方からでもよいから伺へるならば、伺つて置きたいと思ひます。

**座長**（藤原保治氏）　一寸今係りの者が居りませんので、後刻でも…………

**衆議院議員**（添田敬一郎氏）　後からでも結構です。

**福井商工會議所副會頭**（鎌田藤右衛門氏）　大分豫定の時間が過ぎて居るやうでありますから、私は簡單に申上げたいと思ひます。歴史は繰返すと申しませうか、此福井と敦賀が中心となりまして、福井縣が、擧縣一致、對岸に向つて進まなければならんと云ふやうな時代があつたのであります。而も福井縣の縣内の富豪から金を澤山集められまして、對岸協會と覺へてをりますが、さう云ふ會があつたのであります。そして矢張り福井で發會式が擧げられまして、而も余り自動車が流行らん時代でございましたが、對岸協會の名を以て、自動車を一臺買つて活躍されたのであります、それがどう云ふ風になつたか知れませんが、近頃其自動車の行方も不明であります。仕事も無論それに副はないと云ふやうな狀態になつて居るのであります。それが又繰返されて、十年か十五年になると思ひますが名前が變つて敦賀港振興同盟會と云ふものが生れたのであります。

此仕事たるや自由經濟の時代は、成る程擧縣一致、民衆の力を以てやらなければならないと云ふ事は當然でございますが、何分にも統制經濟の時代でありますのと、殊に總てのものが、總動員法に依つて動いて居る時には、どうしても此お上風が、強く入らんと面白くないと思ひます。まだ議題になつて居りませんので、今申上げるのも、どうかと思ひますが、此福敦道路の改修に付きましても、昭和十年頃からやかましく云つて居ります。昨年添田様を初め縣下の代議士の御力添に依りまして、議會で建議案が採決になりまして、滿場一致御採擇になつてをりますが、まだ改修が出來ない。

所が別に願つて居るのではないのですが美濃道路と云ふのが、之が近頃やかましく云はれて居ります。之は大野郡の油坂から岐阜縣に通ずる道路であります。又勝山から金澤への路線之もやかましく云はれて居ります。之は山道の道路ですが、さう云ふ樣に、どうもお上風が余計吹くと、其方は進みますが、お上風が少ないと話がどうしても進まないと斯う云ふやうな結果になるのではないかと思ふのであります。

それで此敦賀港の第三期築港計畫に致しましても絶對他力を主張するものではございません。吾々も無論驥尾に附しまして、協力致しますし、又協力のみではない。お先棒を勤めたいと思つて居りますが、先づ第一に縣廳の方々の——知事さんが一回中央へ御出ましになつ



て、お話をして下さると、外の者が動くよりも、うまく話が進みます。

斯う云ふ事を申上げては、どうかと考へますが此福敦道路に付きましても昨年安藤土木局長さんが、敦賀に御見えになりまして、之を御視察になりました、所が私直ぐさま東京に參りまして、土木局長さんに、市長さんの御伴をして參りまして、話を致して見た所が悪いとは聞いて居りましたが、あの位悪い道は初めて見た、と云ふて居られました様な事で、どうも悪い道と知りながら、而も陳情書にも載つてをりますが、明治六、七年から二十年間に春日野トンネル迄は改修され後は殆ど舊藩時代に改修されたのみで、其後更に改修の形蹟がない。併しお隣りの石川縣は、大聖寺から金澤迄を五ケ年計畫、金澤から津幡の方も三ケ年計畫で、實行に入つてをります。どうもお上風を少し余計入れていただくと云ふと、どうも斯う云ふやうな仕事をする上に於ては、効果を擧げるのではないかと思ふのであります。

私も、添田先生のお話しの如く商人が店を開きますには店を大きくしてお客さんを取込むか、お客を取込んで置いて、それから狭いから擴張しやうといふ行き方と、二つあると思ひます、で矢張り此バツク關係を充分に充實して置けば・自然に其店は擴張しなければならない時が來る。先づ其御道具建よりは、バククの關係と、金融の關係も無論あります、通關の關係も無論あります。産業の方面のバククの關係に、うんと力を入れるといふ事は矢張り縣なり、各方面の御力添へを仰がなければならないと思ひます。統制經濟の時代でありますから、お前の商賣は一寸都合が悪いといはれれば止めなければならない狀態であります。斯ういふ時代でありますから、益々統制經濟を強化されまして、福井縣の輸出織物も相當制限されても尙圓ブロツクでございますが、大陸に向つて一千萬圓以上も出てをります次第でございますから、極力皆さんの御力添へを願ふより以上にバククに力を入れて行くと云ふ事が大事だと思ひます。

此第三期計畫に依りますと、常宮灣の埋立が一萬六千坪でございますが、之は私、一寸小さ過ぎんかと思ひます富山縣の放生津潟の埋立は大規模でありまして、之は天野知事が御着任になる早々、御計畫になりまして四月目か、五月目頃に測量に御かゝりになつて居られますが、斯くの如くバツクに力を入れて頂くと云ふ事が焦眉の急であると思ひます。尙十五年前か、十六年前にも對岸協會があつて、相當の金も集り、縣市共に力を入れたのでありますから、今後も此バツクに對しても擧縣一致して行きたいと思ひます。

# 福敦道路改修促進に就て
## 第三期築港擴張計畫に就て

**座長**（藤原侃治氏）　今福敦道路の問題、それから築港の擴張問題が出ましたが、之も併せて、又御意見を伺ふ事に致したいと思ひます。市長から御説明がございます。

**敦賀市長**（若林義孝氏）　此一、二、三の各項に付きましては、御懇篤なる御話をいろ〳〵承り、又添田先生からは、大乘的見地から御覽になりました御考へなり、御示教を頂きました事を、厚く御禮を申上げます。

又福敦道路の改修促進に付ては、相當御當市に於かれましても、縣當局にも御力添へをねがつております。それよりも前に敦賀と致しましては、名敦道路の改修と云ふ事が、實現化しつゝある譯でありますが、更に皆樣方の御力添へをねがひまして、福敦道路の改修促進に付きましては、敦賀市と致しまして、港灣振興の上から見ましても全幅的に、一つ皆さん方の驥尾に附して、此促進に邁進致したいと云ふことを、御報告を申上げたいと思ひます。それから此第三期築港計畫の擴張と云ふ事に付きましては、之は相當大きな事柄でございまして、第一期、第二期の、其當時の經過を拜聽しましても、到底之は敦賀だけの問題ではない、縣並に大きなバックを動かさなければならない大問題でありますので、之は此所に御手許に差上げたやうに圖面は出來てをりますけれども、今日御協議を具体的に願ふには、余りに問題が大き過ぎると思ひますので、斯う云ふ問題があると云ふ事位を御承知ねがひまして、將來一段の御力添へをねがひたいと思ひます。こちらから提案致しました心持を御説明申上げまして、御高見を承りたいと思ひます。

**敦賀商工會議所議員**（植山常太郎氏）　時間が大分經過してをりますので、極く簡單に、卒直に申上げたいと思ひます。此福敦道路の重要性に付きまして簡單に申上げますが、大体敦賀港の港灣は第二期工事を竣工致しました時滿洲事變が起り、日本海の湖水化と云ふ事が主張されまして、其間關西方面の實業家連中が、日本海の湖水化に付て、如何なる港を利用するかに付きまして、三國、小濱、舞鶴、敦賀を視察されたのでありますが、其結果各港とも長所短所があるけれども一番敦賀港は狹いながらも、港が完備して居る。只遺憾な点は、後方聯絡がない、其當時は未だ、名敦道路も出來てをりませずどうしても之は後方聯絡の完備を必要とすると云ふ事でありまして、其後議會の協贊を經まして、名敦道路も、六ケ年計畫で着々進捗して居りまして、此道路が出來ますなら



ば、名敦道路は敦賀と名古屋を結ぶのみでなく、滋賀縣では湖水周遊網が完備してをりますから、大津に出ますれば、東海道線は殆んど國道が改修されて居ります故に此名敦道路を完備するならば、關西方面へ貫通すると云ふ事になつて居ります。又長い間實現を希望して居りました柳ケ瀬の電化の問題も、新規に新線の鐵道線が出來るやうになつたのであります。之も着手してをりまして之が出來れば軌道が複線になれば、道路は關西を繋ぎ、名古屋を繋ぐ、之で後方聯絡も完備する譯でございますが遺憾ながら御地の福井と聯絡して居るものは、要するに國道一本でございます故に福敦道路と云ふ事に付きましては、先般福井に於きまして協議會を開いた事がございますが、其際に御市の市長さんにも御臨席をねがひまして、それから福井と隣接する鯖江武生等を視察したのでありますが、此敦賀福井間の道路は非常に惡いのでありまして、斯う云ふ譯で、何でもかんでも福敦道路を早く完成して行かなければならんと信じてをります。所が幸か不幸か存じませんが最近の新聞紙の報道に依りますと、丹生郡の大谷に於て地辷りか何かあつて、國道が危險狀態であると云ふ事で、之に對して政府は之を改修をしなければならない時期は來てをりますので此機會に縣市町村等の協力を得まして、萬全を期して、この福敦道路の改修工事を促進するやうに、各位に御懇願する次第であります。尙來月二日には名古屋土木出張所長が敦賀に御出でになりますから、どうか御市の方の關係者の方も、敦賀の方と一緒に御視察を頂くとか、御懇談を願へれば結構と考へます。簡單ではございますが、福敦道路を一日も早く實現するやうに懇願する次第でありますどうぞよろしく御ねがひ致します。

**座長**（藤原侃治氏）　土木課長――福敦道路の經過に付て

……

**縣土木課長**（中　忠義氏）　先程から鎌田さんなり、植山さんから、福敦道路の問題に付てお話がございましたが私からも調査して居る点に付て御報告申上げたいと思ひます。昨年私は本縣に參りましてから齋藤福井市長を初めとして、福井市、敦賀市の御當局、それから沿道筋の町村長有志のかた〳〵から、非常に御熱心に福敦道路の改修を陳情されまして、吾々は兎に角實地を見たいと云ふので五、六名の有志のかた〳〵と實地踏査を致したのでありますが、福井市役所から敦賀迄は確か六十八キロか九キロあつたと考へますが、其の間の路線たるや、明治十七年及び十八年後に出來たと云ふ事でございますが五十何年前に改修された儘で、今日其の儘でございまして、幅員も狹ければ、勾配もカーブも非常に急のもの

が多くございまして、殊に武生の方は、敦賀迄三十五キロ位の間に、曲線が三百五十あつたと思ひます、勾配は自動車の上ですから、よく分りませんでしたが、兎に角勾配も非常にございました。東海道線から北陸三縣に通ずる道路としては、余りに心細いと考へました。何とかして改修計畫を樹てたいと思つて、色々調べてをりますが、殊に冬の積雪の時期になりますと、約四ケ月間交通が出來ないのであります。それで矢張り改修するならば、海岸線を選んで雪害を受けないやうにしたい、斯う云ふので、いろ〳〵調べましたが、之には約三百五十萬圓程の工費を要するやうに思はれるのであります、それで時節柄、成るべく消極的にして、實現の可能性のある現在の道路の幅員を擴充し、カーブを直したり致しまして、之は物價が上らない時でありますが、約八十萬圓かかる豫定でございました。之は武生から敦賀迄約五十哩の間でございます。又武生、福井間之に約八十萬圓、大体百六十萬圓位かゝる豫定でございましたが、この程度のものならば、或は可能性がありはしないかと思ひまして、內務省當局へ上京する度每に、吾々はおねがひをして居るのでありますが、如何んせん、時局柄大きい工事は出來ないと、さう云ふ工事も必要は認めてゐるけれども、それよりも今日は國防上に、金を使はなければならないと云ふやうな譯で、未だ實現をしないで、殘念に思つてをります。丁度其所へ本月始め頃から、新聞紙上によく皆さん方は御覽なさつてをられる事と思ひますが、大谷の附近に於きまして、地辷りがございまして、之は吾々ばかりでもいけませんので、專門の地質學者に御願ひ致して、見て貰つてをりますが、今の所では確かに表土だけの地辷りであつて、さう地核に至る迄の動きではない、而も敦賀は元々陷沒に依つて出來たものである、此大谷は斷層と斷層の繼ぎ目に當つてをりますので或は深い移動ではないかと云ふので、よく測量して貰ひたいと云ふので、今測量しつつあるのであります。四、五日すれば、其動きの原因も判るだらうと思ひますが、若し深い移動であれば、此際思ひ切つて海岸線迂回の道路をなるべく作つて頂きたいと思つて居りますが、先程申します通り、三百五十萬圓以上を要すると云ふ路線でありますから、一朝一夕に參らないと思ひますが、貴衆兩院議員のかた〴〵もゐらつしやるし、縣民全部の、一つ御後援をねがひまして、是非實現したいものと思ひます。

**福井市長**（齋藤直橘氏）　段々皆さんから御話を拜聽致しまして、最早御話も盡きたやうに思ひますが、私市の關係あるものと致しまして、一言御挨拶旁々申上げて見



たいと思ひます。敦賀港の問題は、只今敦賀市の敦賀と云ふやうな事を、考へてをると云ふやうな御話がございましたが、決してさう云ふ事ではない。私は敢て縣廳の過去の人々を辯護する譯ではありません。只今の鎌田さんの御話もありました通り對岸實業協會と云ふものが、約十四、五年、もつと前ですか、二十年程前に出來まして其當時私も縣廳に奉職してをりましたから、よく事情は承知して居ります。

縣の內外から約十何万圓かの金を募集致しまして、其金は基金とか、何とか云ふ事にして、保存することは止さうと、皆此敦賀港の發展計畫運動の爲に使つて仕舞ふと云ふ様な方針の下に、運動を初めたのであります。成る程鎌田さんの御話の様に、東京で自動車を求めまして時の縣の當局が、それを利用致しまして、東京のそれ〴〵關係方面、先輩等を歷訪致しまして、敦賀港の計畫發展と云ふ事に努力した様に思ひます。吾々市の關係者と致しまして素より微力ではありますけれ共、微力の限りを盡して、敦賀港の爲には考へて居つたのであります今回は又昔に返りまして、斯う云ふ會を御設け下さいまして、さうして、吾々福井市の關係者も意見を述べ、又敦賀の關係者の御意見を聞く機會を與へられまして、今後も又かういふ事が、度重る事と考へますが、實に私は結構な會が出來た事を、敦賀港、福井縣の爲に喜んで居る次第であります。既に御話も盡された様でございますから、蛇足を加へる必要はございませんが、只一言申上げたいと思ひます。輕工業の事柄に付て、いろ〳〵具体的に合致し、總ての方面が食ひ合つて、實効を擧げて行くと云ふ事に付ては、まだ〳〵現在は餘地が殘されて居る様に思ひます、其れに伴ひまして、敦賀港の第三期築港計畫、さう云ふものも、將來を見透して、相當なものを作つて置かなければならない。只此事變に際會して、福井縣の產業狀態を眺めて見ますと、福井に參りますと織物と、敦賀港、先程も何方か御話がございましたが、事實其の通りで、織物が盛んな時は、縣民が非常に富んだのであります。その爲此時局に際會しまして、どうも產業が跛行的ではないかと思ふ。もつと何か此所に重工業が起りまして、こう云ふ様な事變に際會しましても、縣民が大した打擊を受けないで行く様な方法はなからうかと云ふ事は、之は直ぐに起つて來る疑問でございまして、其所で重工業を、一つ誘致したい。重工業を縣下に多く置きたい。敦賀などでは、此事に付て、早くから着眼されまして、色々の工業を誘致する事に付ても、効を奏して居られる様に承つてをります。

福敦道路の事に付ても非常に之と關係がございますので

私は此道路は、只今土木課長が申されました通り、昔の參勤交替の時代の道路でございまして、道路としての能率はないのであります。軍事上から考へましても、鐵道等が破壞されました時には、此道路と云ふものは、非常に必要なものとなつて來る、國道十二號線は、最も大切な道路のやうに思ふのであります。此敦賀と福井の間の道路が完全になりまして、此間に或は、武生、鯖江、其他の適地々々に、重工業が起りましたならば、非常に結構でありまして、之は在來の本縣の產業が、跛行的であつたと云ふ事が、こう云ふ事變に際會致しますと、打擊を蒙るのでありますから、こう云ふ場合にも備へたいと思ひます。さう云ふ点からも、此福敦道路と云ふものを早く完成する事が、之は先づ以て先決問題ではないか、斯う考へまして、只今の御話しにも非常に共鳴を致す次第でございます。で、先程御話がございました樣に、添田氏を始め山田貴族院議員其他各代議士諸君の御同意を得まして、議會に建議案等を提出してをります、內務省に對しましても、陳情致す事何回か、その數を知らん程でございます。縣の御當局は大体に御贊成に成つて居るのでありますから、早く實現したいと協力されてをりますが、いろ〳〵の事情がありまして、未だ實現しないのでありますけれ共、何か斯う云ふ事の爲には、一つ具体的な事を、之を今度やつて行かうと云ふ事を、一つ選んで頂いて、所謂擧縣一致で實現を計りたいと思ひます。此敦賀港の擴張は素より贊成でございますから、之が實現を期して行かなければならないと云ふ樣に進んで行かなければならないと考へます。其次には此福敦道路を一日も早く完成致す樣に、其實現を期して行きたいと思ひます。一言私の感じました事を申上げた次第であります。

**敦賀市長**（若林義孝氏）　御多忙中御出席を得まして、御懇篤に、縣を思ふ見地から、又敦賀港を御考へ下さる見地から、御高說、御批判を得ました事を、厚く御禮を申上げたいと思ひます。大体此座談會は之で終る事に致しますが、時間も豫定より長くなりましたが、之も皆さん方の熱意の現れでございますので、時間の遲れました事を主催者の一人と致しまして、厚く此點も御禮を申上げる次第でございます。

本日はどうも有難うございました。

—午後零時二十分散會—



# 敦賀港第三期擴張計畫案

## 第一、現在の設備

第一期修築工事

明治四十二年七月起工
大正二年十一月竣工
工費　八拾萬圓

第二期修築工事

大正十一年九月起工
昭和七年三月竣工
工費　四百五萬餘圓
繫船岸壁　延長　七八六米五〇
荷揚場　〃　五六九米
防波堤　〃　六八〇米
防砂堤　〃　三八〇米

岸壁繫留船舶數

六千噸級船舶　一隻

三千噸級 〃 四隻
二千噸級 〃 二隻
荷役能力 七十萬噸

## 第二、第三期擴張計畫案

### （イ）川崎西方海岸修築案

計畫概要

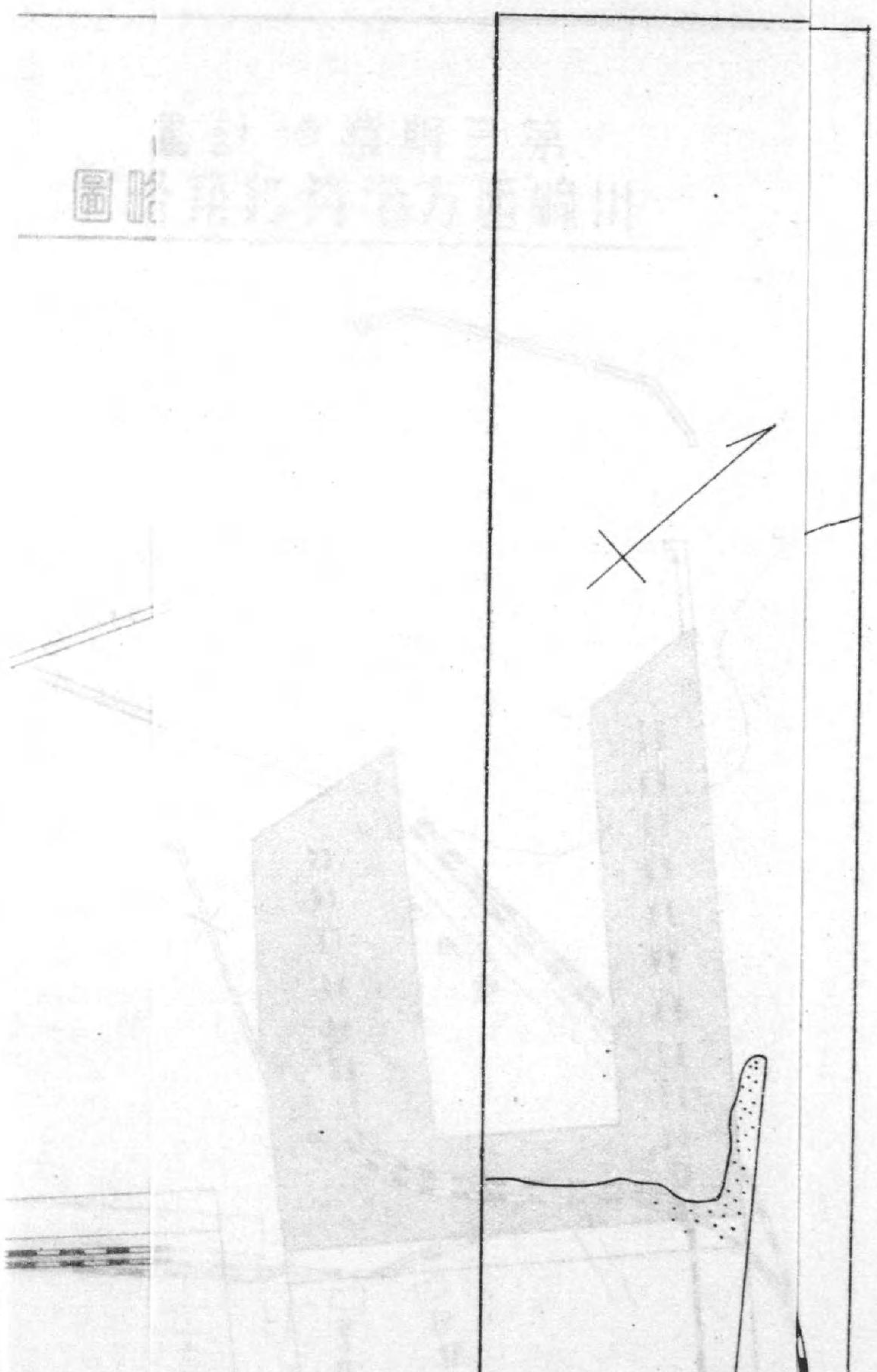
繫船岸壁 構築延長 一、六〇〇米
防波堤 〃 〃 四五五米
埋立地坪數 一六、〇〇〇坪
工費 約八百五拾萬圓
完成後ノ岸壁繫留船舶數
一萬噸級船舶 七隻
六千噸級 〃 二隻
三千噸級 〃 一隻
荷役能力 百參拾萬噸

### （ロ）常宮灣修築案

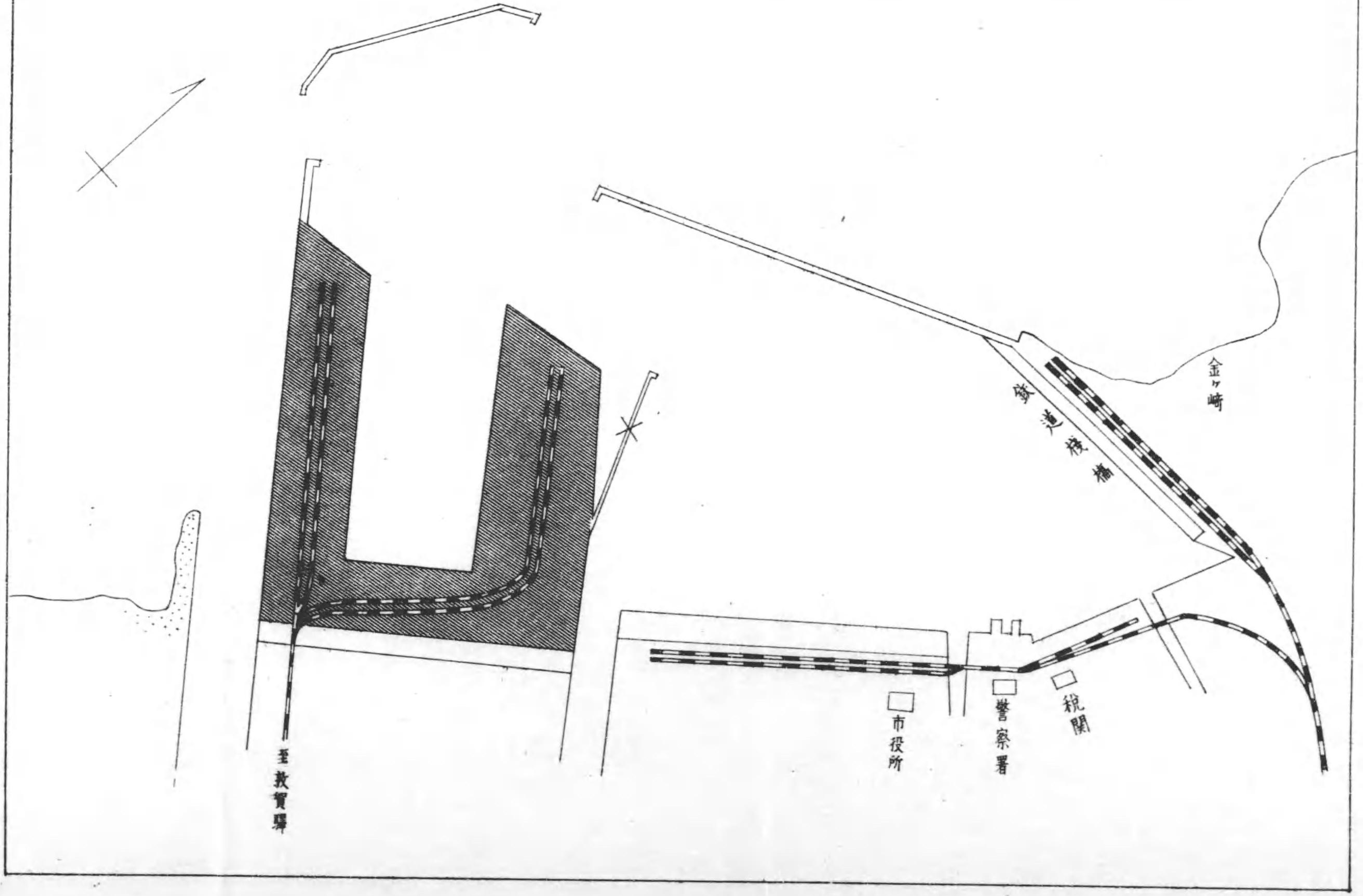


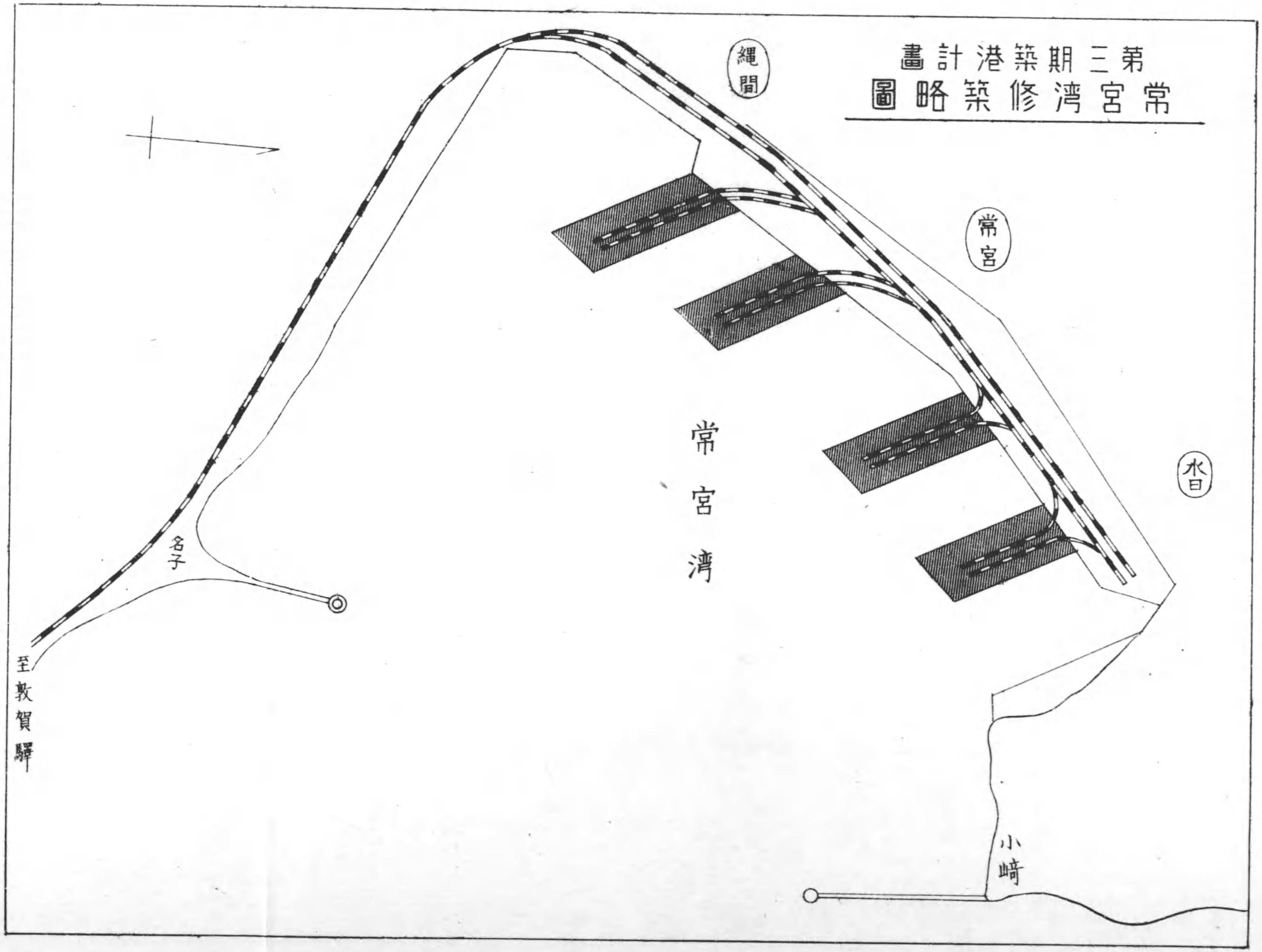
計畫概要

繫船岸壁 構築延長 四、二〇〇米
荷揚場 〃 〃 二三〇〇米
石炭荷揚場 〃 〃 六五〇米
防波突堤 〃 〃 五五〇米
埋立地坪數 七一、〇〇〇坪
工費 約壹千貳百萬圓
完成後ノ岸壁繫留船舶數
一萬噸級船舶 八隻
八千噸級 〃 二隻
七千噸級 〃 五隻
六千噸級 〃 五隻
三千噸級 〃 七隻
但三萬噸級乃至五萬噸級船舶繫留可能
荷役能力 參百五拾萬噸



# 第三期築港計畫
## 川崎西方海岸修築略圖





第三期築港計畫
常宮灣修築略圖
縄間
常宮
沓
常宮灣
名子
至敦賀驛
小崎

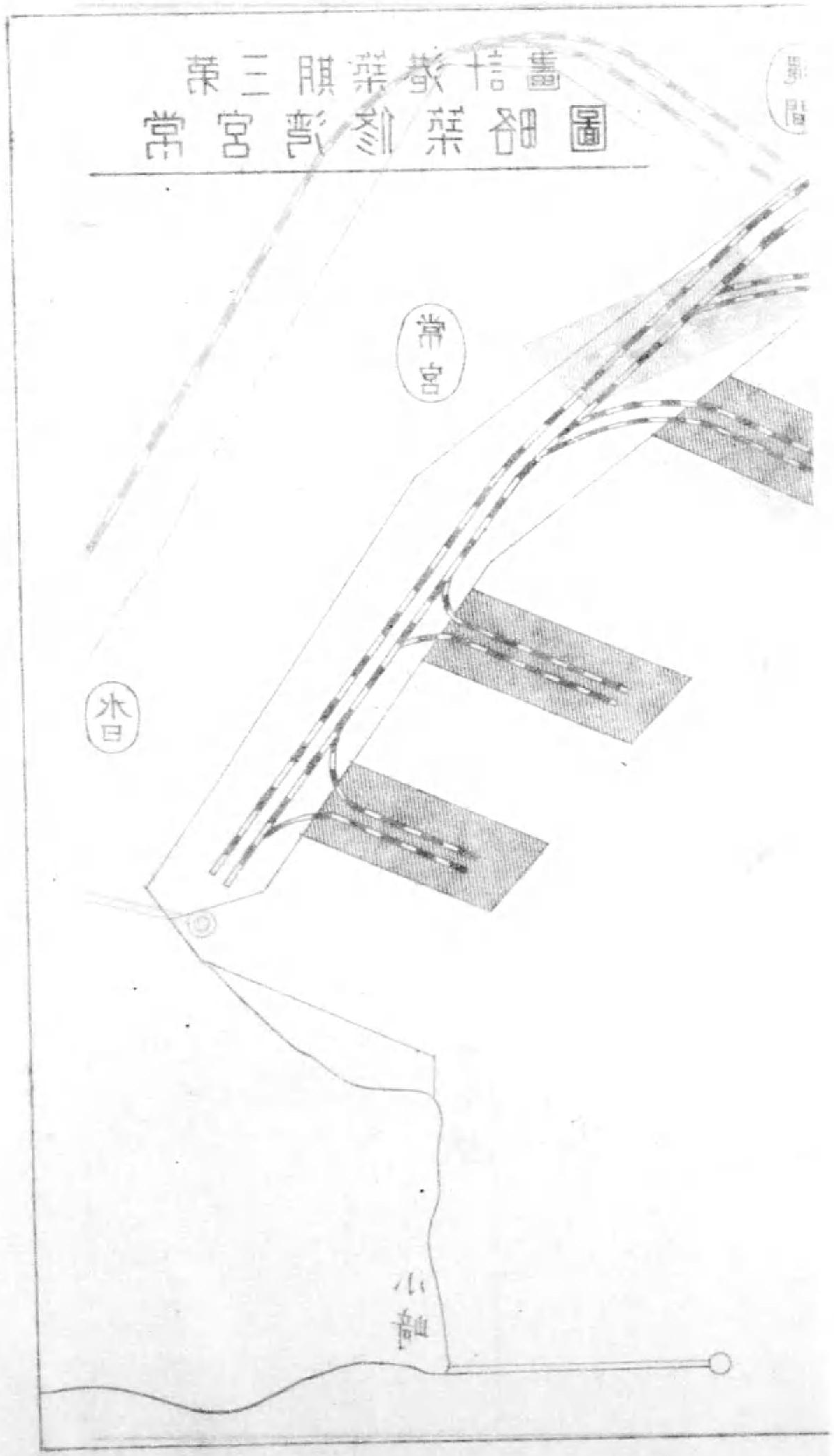
395
164

昭和十四年六月二十五日印刷
昭和十四年七月一日發行　（非賣品）

發行所　福井縣敦賀市櫻　敦賀市港灣課

印刷者　福井縣敦賀市松榮一四七　宮川孫七

印刷所　福井縣敦賀市松榮一四七　宮川印刷所



終